

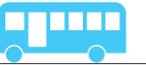
【表1】市のコミュニティバス

コミュニティバス	運行内容	1便当たりの利用者数		市の負担額	
		平成23年度	平成24年度	平成23年度	平成24年度
ふくろう号	市役所や保健センターなどの公共施設や医療機関、商業施設の集積地域を中心に花巻地域の市街地を循環(毎日10便。右回り5便、左回り5便)	13.5人	14.3人	767万円	740万円
大迫・花巻地域間連絡バス ※1	大迫地域と花巻地域を直接結ぶ(平日4往復、土日休日2往復)	4.4人	4.6人	801万円	794万円
大迫地域公共施設連絡バス	大迫地域内の公共施設や医療機関を循環(平日1便)	4.4人	3.8人	26万円	26万円
石鳥谷地域予約乗合タクシー (試験運行)	石鳥谷地域内で、利用者の自宅付近と公共施設や医療機関などの指定乗降場所を直接結ぶ(平日4便。月・木曜日は河東地区、火・金曜日は河西地区)	9.1人	7.6人	546万円	518万円
東和地域予約乗合タクシー (試験運行)	東和地域内で、利用者の自宅付近と公共施設や医療機関などの指定乗降場所を直接結ぶ(平日3便。火・水・金曜日は北部地区、月・水・木曜日は南部地区)	6.6人	6.4人	633万円	650万円
太田地区予約乗合タクシー (試験運行)	民間路線バスが廃止となった「むらの家」と高村山荘の間を結ぶ(平日2便)	1.4人	1.5人	20万円	42万円
市営バス ※2		0.98人	1.0人		
田瀬線		1.9人	2.2人		
中内線	土沢地区を起点に、田瀬地区、成島地区、浮田地区、小山田地区、中内地区へ運行(1~2往復)	0.7人	0.9人	3,352万円	3,270万円
小山田線		0.8人	0.9人		
山の神線		1.0人	0.7人		
浮田線		0.6人	0.5人		
バ連絡 大迫地域 (試験運行)	大迫・花巻地域間連絡バスの延長路線で、花巻駅と県立中部病院を結ぶ(平日4往復)	2.7人	2.8人		
西南地区 予約乗合 (試験運行)	太田地区の「むらの家」を起点に、県立中部病院までを結ぶ(1日3便、火・金曜日のみ)	1.3人	1.1人	30万円	23万円
東和地域 予約乗合 (試験運行)	土沢駅を起点に、県立中部病院までを結ぶ(1日3便、月・水・金曜日のみ)	1.3人	1.3人	52万円	59万円
合計				6,339万円	6,232万円

※1 県立中部病院連絡バスの利用者も含んでいます
 ※2 1便当たりの利用者数に通園・通学の利用者は含まれていません



①市街地循環バス「ふくろう号」。高齢者などが乗り降りしやすい低床バスです②利用者の自宅付近と公共施設などを結ぶ「予約乗合タクシー」。石鳥谷地域と東和地域で利用されています



地域で支える公共交通

路線バスをはじめとする公共交通は、高齢者や子どもなど自分では車を運転できない人にとって、通院や買い物など利用できる大切な交通手段の一つです。
 しかし、市内を運行している路線バスは、年々利用者数が減少しています。バスをこれからも「地域住民の足」として確保するために、みんなで公共交通を支えていきましょう。

公共交通機関は市民の足

市では、公共交通を必要とする市民の皆さんに、快適で便利な公共交通サービスを継続して提供するため、コミュニティバスの運行や民間事業者への支援を行っています。
 しかし、路線バスの利用者数が減少している中で、これまでの「路線維持」の考え方を継続することは難しい状況です。そのため、新たな視点による公共交通の目指す姿を検討しています。

市のコミュニティバスの実態

市内を運行している路線バスは、市の委託などによるコミュニティバスと、民間事業者の路線バスに分けられます。
 市のコミュニティバス(表1参照)は、民間事業者の路線バスが撤退した地域や、県立中部病院までの乗り継ぎが不便な地域など、それぞれの地域の実情に合わせて、市が計画し運行しています。
 中心市街地では、移動手段の利便性向上を目的に市街地循環バス「ふくろう号」を運行しています。

民間事業者の路線バスの実態

市内を運行する民間事業者による路線バスは、20路線。そのうち12路線は、国や県、市からの補助金の交付を受けて維持されています(表2参照)。また、昨年度の利用者数は、75万人と東日本大震災による減少が大きかった平成23年度の62万人に比べ増加しています。しかし平成18年度の125万人と比較すると大幅に減少しています。
 民間事業者の路線バスは、利用者数の減少によりほとんどの路線は採算が成り立っていません。このため平成20年度から現在までに路線廃止1路線、一部路線廃止2

【表2】市内を運行する民間バス路線(補助対象路線のみ掲載)

路線名	経路	補助金額	
		平成23年度	平成24年度
①石鳥谷線	北上駅～志和口	(国・県)2,082万円	(国・県)2,115万円
②晴山線	イトーヨーカドー～晴山	(国・県)1,389万円	(国・県)893万円
③成田線 ※	花巻北高校～北上駅	(県・市)60万円	(県・市)51万円
④江釣子線 ※	花巻駅～北上駅	(県・市)203万円	【廃止】
⑤大迫石鳥谷線	大迫バスターミナル～石鳥谷駅	(県・市)450万円	(県・市)450万円
⑥新湯本温泉線	花巻駅～新湯本温泉	(市)223万円	(市)314万円
⑦栃内線	花巻駅～尻平川	(市)585万円	(市)541万円
⑧鍋倉線	花巻駅～観音堂	(市)77万円	(市)94万円
⑨母衣輪線	花巻駅～母衣輪	(市)54万円	(市)65万円
⑩天下田団地線	花巻市役所前～天下田団地	(市)51万円	(市)37万円
⑪更木線	花巻駅～更木	(市)186万円	(市)269万円
⑫長崎線	長崎～ルック工場前	(市)38万円	(市)46万円
⑬大迫紫波中央駅線 ※	大迫バスターミナル～紫波中央駅	(市)242万円	(市)262万円

※③④⑬の補助金は、走行距離に応じて本市と隣接自治体が負担

路線・減便10路線と路線廃止を伴う再編が行われました。今後も路線廃止を伴う路線再編が進んでいくことが予想されています。
公共交通を維持するために
 自家用車などの自由な移動手段を持たない人にとって、バスなどの公共交通機関は日常生活になくしてはならない大切なものです。しかし、今後も利用者の減少が続く

ようであれば、今まで通りの路線を維持することはできません。
 市のコミュニティバスについても、利用者が1便当たり2人に満たない路線などは、路線廃止を前提とした見直しを行うこととしています。
 地域の大切な交通手段として、公共交通を維持するためには、皆さんが公共交通の重要性を再認識し、積極的に利用することが望まれます。